

小さなまちの
古き良きを
巡る2
Part_2

灯籠流し

水面に浮かぶ灯籠
有明泉周辺は
幽玄の光で優しく包まれていく

★案内人★
郷田良造さん
(79) 大間 Gouda Ryoza



4 灯籠を持った人が続々と有明泉周辺を訪れる
5 願いが込められた灯籠を一つ一つそっと水面に浮かべていくシルバークラブの会員
6 網でつながれ、泉を流れていく現像的な光の集団
7 持ち寄られた灯籠は、会員によって火が灯され、立ち台へと運ばれていく



古き良き松前の
ぬくもり漂わせて



8 「きれいだね」と優しい眼差しで灯籠を見つめる子どもたち



1 慣れた手つきで土台に色紙をかぶせる郷田良造さん 2 「これ、名前書くところがズレたかな?」「大丈夫じゃよ」みんなで和気あいあいと作業を進める



3 「お願いします」かわいらしい住民から灯籠が差し出される
「はい、任せとき」こんな会話からまた泉の周りには優しさが広がっていく

「今年も1年、家族みんなが元気で過ごせますように」
盂蘭盆の夜、大間地区ではみんなが灯籠を有明橋に持ち寄る。シルバークラブが無病息災の願いを込めて手作りした灯籠だ。
盂蘭盆3日前の8月22日、大間集会所にシルバークラブの会員が集う。会長の郷田良造さん(79)は「私が小さいときから変わらずこの灯籠流しがある。もう何十年、もしかしたら何百年も前からやっているのかも」と優しく微笑みながら、一つ一つ丁寧に灯籠を作っていく。

灯籠流しは、地域の誰もが心待ちにしている年中行事。みんなに喜んでもらえるようにと、会員たちは充実感の中で作業を進めていく。自然と会話も弾む。
灯籠は、会員らによって大間の全戸分が作られ、各家庭へと届けられる。
灯籠流し当日の25日、有明泉には、立ち台が組まれ、網がつながれる。
「こんばんは。よろしくお願います」と持ち寄られる灯籠。一つに火が灯され、そっと水面に浮かべられていく。幻想的な雰囲気の有明泉周辺を包む。温かい光を見つめる子どもたち。その光景をやさしく見守るシルバークラブの皆さん。
有明泉の水面には、古き良き松前のぬくもりが漂い続ける。